

地域とつながる日本語教員養成 Contemporary Connection with Japanese Teaching Course and Community

奥村訓代 OKUMURA Kuniyo
高知大学 Kochi University

【キーワード】 点在外国人、一極集中、健康長寿県構想、日本語教育、興味関心度

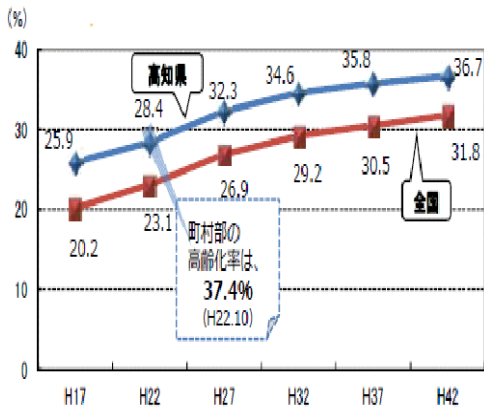
県の84%が森林で、県南を710キロ以上に及ぶ海岸線、反対側の他県と境を山で阻まれている高知県は、高齢化^{図1}が平均値より10年、また自然減少数^{図2}は15年進んでいるといわれている。また県の中心地である高知市とその他の地域とは、いろんな違いが対応上に見受けられる。そのような中で、特に地域と外国人、そして日本語教育という視点から論を進めることとする。

1. 高知県の特殊（地理的、歴史的、文化的要因から）

高知県は、県の半分を海に面し、反対側の半分は山が連なる34の市町村(11市17町6村、2013年4月1日時点)からなり、その人口746876人中の約半分の340693人(高知県推計人口調査H25.5.14日現在)が高知市に集中していることから生じるメリットと地域差弊害を持った県である。

それは、47都道府県中1・2位を争う低所得県¹であるにも関わらず、お酒(ここでは、ビール)の消費量は日本でも上位^{図3}にあり、高知と某ビールメーカーの関係もその事実を物語っている。例えば、「たっすいがは、いかん！」という高知弁によるキャッチフレーズで有名な某ビール会社(前身であるジャパンプルワリー)は、グラバーと龍馬の出会いから始まり、後年、海援隊、そして岩崎弥太郎が創立した「三菱」財閥の協力により明治40年に創立され、120年の歴史を持つに至った。つまりグラバーと高知県を代表する龍馬との出会いがなければ某ビール会社の今日は存在しなかったかもしれないとさえ言われている。と同時に高知ではそのような歴史を大切に、某ビールしか置かない居酒屋も今も根強く残っており、収入が少なくとも、そのビールをこよなく愛するという拘りは、今も昔も変わらない。

ビールのみならず、2009年度の種類の消費数量も、全国で3位であり、発泡酒に至っては堂々の1位であった。(平成23年度国税庁種類課作成「酒のしおり」より)



出典:日本の都道府県別将来推計人口(至195)国立社会保障・人口問題研究所
図1: 高齢人口比較

	高知県	全国
S60	2,462	679,294
H2	-386	401,280
H7	-1,022	264,925
H17	-3,203	-21,266
H19	-3,354	-18,516
H21	-4,022	-71,830

出典:人口動態調査(厚生労働省)・人口移動調査(高知県)

図2: 人口自然減少数比較

ビール消費量ランキング

順位	都道府県	消費量		偏差値
		総数	成人1人あたり	
並替	北 南	降順 昇順	降順 昇順	降順 昇順
1	東京都	821,596,000 リットル	76.41 リットル	79.26
2	沖縄県	80,048,400 リットル	75.66 リットル	78.32
3	高知県	46,059,600 リットル	71.74 リットル	73.39
4	大阪府	505,622,200 リットル	70.56 リットル	71.89
5	青森県	69,567,600 リットル	61.08 リットル	59.95

図3 2009年度国税庁の統計情報から抜粋

一方、歴史的に高知は、古くは古事記・日本書紀においても南国土佐として以下の通り語られている。

- ・『古事記』の国産み神話には、「土佐国は、健依別（たけよりわけ）と謂う」とあり、雄々しい国とされてきた。
- ・また『日本書紀』においては、最古の地震記録である白鳳南海大地震（684年）10月14日の条に「亥の刻（午前9時～11時頃）になって、大地震があった。このとき伊予温泉（道後温泉）は埋没して出なくなり、土佐国の田畠120ヘクタールが沈下して海になった。」と記載されている。

それ以降「陸の孤島」「遠流の国」と呼ばれ隠岐や佐渡などと並んで流刑地とされてきた地域でもあり、土佐日記の紀貫之などは有名である。その他にも台風銀座、灯台守の歌、映画「死国」、かつお一本釣り、ジオパーク、ペギー葉山、龍馬、寺田虎彦、牧野富太郎、ジョン万次郎、野山兼山、吉田茂、板垣退助、岩崎弥太郎、山下泰文、幸徳秋水福永洋一、公文公、大月桂月、三浦朱門、宮尾登美子、上林暁、田内千鶴子、広末涼子、岡本真夜、西川きよし、横山やすし、藤川球児・・・と話題には事欠かない地域である。

そして現在でも、その特色が、外国人対応や日

本語教育においても見受けられる点が興味深い。

例えば、①日本語を必要とする児童・生徒への日本語指導の在り方、②日本語に関するボランティア、③留学生数、④滞在・観光外国人数、⑤EPAによる看護師・介護士候補生の受け入れ数など、どの項目をとっても数値の低さが目につくのが現状である。①についていえば、現在高知県下では6つの小中学校で日本語を必要とする児童・生徒が在籍しており、それぞれに日本語担当教員がいる。また、それをサポートするために高知教育研究所所属の指導員（英語担当者1名と中国語担当者1名）が取り出し授業、および入り込み授業において通訳として協力体制をとっているものの、いわゆる日本語の専門家が授業を行っているところは一か所もない。

このように日本語教育や異文化理解に関しても関心度や必要性を全く感じていないのも、高知人の伝統で、「はちきん・いごっそう」精神の表れなのかは定かではないにしても、一つの伝統を頑なに守る性格がかなり左右していると言えるのだろう。

次に、このような状況下における高知での日本語教員養成とのかかわりをみてみよう。

2. 高知大学人文学部日本語教員養成課程

1998年から高知大学人文学部に日本語教員養

成コース（副専攻課程）が設置された。それまでいた1名の日本語・日本事情教員とドイツ語ポストの後任として日本語専任教員1名が採用され、日本語教員養成コースが出来ても今後は日本語関係の教員は増やさないという条件で、それまであった人文学部留学生用科目（留学生特例科目）を改変し、日本語教員養成課程として新しく発足した。そして2名の専任（兼任）＋非常勤体制は、今も続いている。

受講生は、毎年30名から50名程度（2年生以上が、受講可）で、毎年4年生の中から4・5名の日本語教師が誕生している。

図4のように協定校を増やすメリットは、それぞれの重なり部分に見られるように、国際活動（受け入れと送り出し）において、①「語学習得と国際交流」、②「就職と異文化理解」、および③「自文化への目覚めと、視野の拡大・促進」の一石三鳥（図4）の実現に貢献している。日本語教師の多くは、海外の協定大学で外国人専任教員として勤務後帰国し、日本の日本語学校での専任を始め各地の大学の非常勤講師として、あるいはJICAや国際交流基金の専門職員としての派遣、また、諸外国で培った外国語力と人脈を駆使し企業で活躍している。

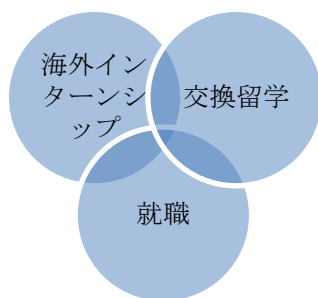


図4 協定校増加によるメリット相関図
（重なり部分が上記①②③を意味する）

日本語教員の就職先確保のために具体的に行った大学間交流協定先は、以下のとおりである。

韓国：韓瑞大学、白石大学、徳成女子大学、釜山外国語大学、金剛大学

インドネシア：ウンタグスラバヤ大学、ドクターストモ大学、ブラビジャヤ大学

中国：チャムス大学、安徽大学

上記以外にも希望があれば、アメリカ、サウジアラビア、ベトナム、タイの大学を始め、国内外の日本語教育機関に教員を就職させてきた。

そして、現在我々は以下のプロジェクトを行っている。

- 1) 看護師・介護士のための日本語サポート
- 2) 日本語を必要とする児童・生徒担当教員のための日本語支援
- 3) 市・県の教育委員会とのタイアップによる日本語指導者育成の支援
- 4) 災害弱者である外国人のための防災教育
- 5) 明德義塾高校との、日本語教育に関する高大一貫教育の模索

などが、その主なものである。

ここでは、上記の1)と5)について言及しておきたい。

1) 看護師・介護士のための日本語サポートに関しては、平成20年度より平成24年度までの4年間、文化庁より助成を頂き、看護師・介護士のための日本語教室開催と日本語ボランティア養成を行った。

その一方で、そこで学んだノウハウとジレンマを生かして、NPO（高知インドネシア看護師サポート会）を平成21年度より発足させ、毎年3名のインドネシア学生を受け入れ看護師養成を行い、今年度（平成25年度）で4期生の受け入れとなる。詳細は、高知・インドネシア看護師サポート会のホームページにも詳細が記されている通りであるが、要約すると以下の通りである。（HPより抜粋）

1) について :

●看護師養成プログラムの流れ (図5)

Step1 : 明德義塾日本語コース「看護候補生事前教育」 (1年6ヶ月)

日本語能力検定試験 2級が留学の最低条件不合格の場合は「再挑戦」か「断念 (進路変更)」

Step2 : 高知の看護学校へ入学 (3年以上の短大もしくは看護専門学校)

1月下旬から始まる短大・看護学校を受験合格不合格の場合は帰国し、「再挑戦か進路変更」

Step3 : 看護師国家試験合格 (正看護師医療研修) 国家試験に合格後、高知サポート会ネットワーク病院施設で研修

Step4 : 看護師勤務 研修終了後7年間高知の病院で勤務

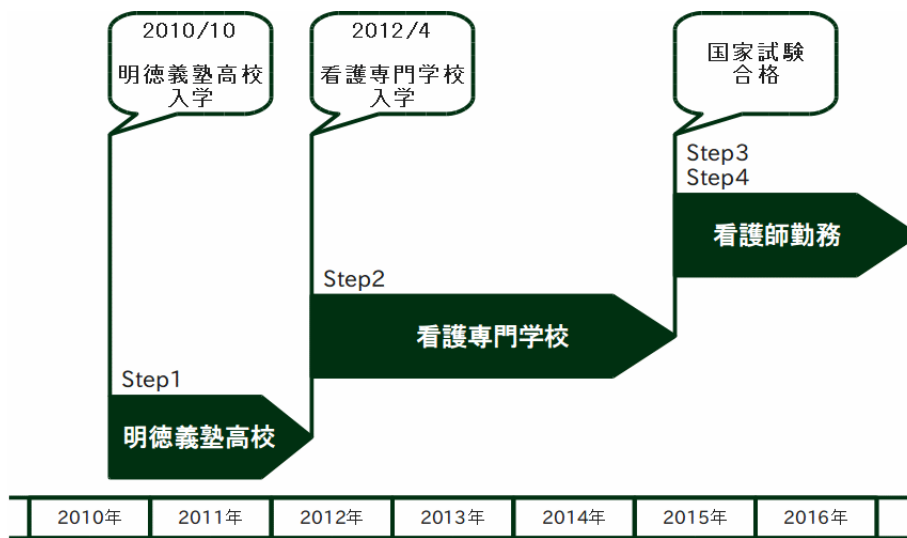


図5 候補生の受け入れから、帰国までの流れ

●これまでの活動 (経緯概略)

2008.11 九反田文化サロンにて終末医療を考える会を医療関係者、介護施設、大学教授、新聞記者、NPO関係者が集まる。EPAについての各人の認識を諮る。

2009.1 高知県がインドネシア介護士受け入れ推進県となることを提唱する。

2009.7 徳島 (健祥会) インドネシア介護士候補生の実態を視察する。

2009.8 内田理事長にインドネシア介護士候補生受け入れを打診する。

2009.12 インドネシア介護士、看護師候補生受け入れを検討する。

2010.2 インドネシア介護士、看護師候補受け入れ状況を模索する。

2010.4 10月よりインドネシア看護師候補生を受け入れることが確約される。

2010.4 10月より受け入れてくれる明德義塾と協議していく。

並行して、送り先のインドネシア福祉友の会と連絡を密にする。

2010.5 高知県知事にインドネシア看護師候補生受け入れの説明に伺う。

2010.6 高知県の看護学校にインドネシア看護師候補生受け入れの説明に伺う。

2010.6 高知県庁健康政策部、課長にインドネシア看護師候補生受け入れの説明に伺う。

- 2010.7 インドネシアより10名の看護師候補生が来高し、その内3名を選抜する。
- 2010.8 高知・インドネシア看護師サポート会の名称を決め、インドネシア看護師候補生との契約書を作成する。並行して明德義塾の協力をお願いする。
- 2010.8 明德義塾から協力をいただくことが確約される。
- 2010.8,9 インドネシア福祉友の会、明德義塾、サポート会と連携で受入れ準備にかかる。
- 2010.9 高知・インドネシア看護師サポート会の交流会を開催する。高知県、病院施設、高知大学、NPO関係者10数名が出席する。
- 2010.10 インドネシア看護師候補生3名が明德義塾高等学校日本語コースに入学する。
- 2010.11 第1火曜日をサポート会の月例会とし、第3火曜日をインドネシア看護師候補生の報告会とする。
- 2010.12 高知・インドネシア看護師サポート会かわら版を発行していく。
- 2011.1 ガルーダサポーターズの宮崎事務局長と情報交換を行う。
- 2011.6 高知・インドネシア看護師サポート会公式サイトを公開。
- 2011.10 インドネシア看護師候補生、第二期生(1名)が明德義塾高等学校日本語コースに入学する。
- 2012.3 インドネシア看護師候補生 第一期生が明德義塾高等学校日本語コースを卒業。
- 2012.4 インドネシア看護師候補生 第一期生、高知学園短期大学看護学科に入学
(以上、一期生の活動を中心に「高知・インドネシア看護師サポート会」のホームページより

●マスコミ掲載

また、以下は同上ホームページにある新聞記事等である。



図6 高知新聞 2011.9.17



図7 高知新聞 2011.10.17

●これまでの活動報告

高知・インドネシア看護師サポート会は定期的に活動報告として、「かわら版」を発行する。

2011年6月までの活動については以下のかかわら版をご覧ください。

2011年6月～の活動については、トピックスに掲載致します。



図8 かわら版1号 2010.10



図9 かわら版2号 2011.1



図10 かわら版3号 2011.2

5) について：明德義塾高校との高大連携

●高校教員受入れ（日本語教育ブラッシュアップ）
⇔ 院生のアルバイト先確保（経験）

●高大日本語教育連携授業の展開（ゼロから専門家への一貫教育プログラムの模索）

本年度中には具体的な青写真に基づいた外国人の日本語専門家養成と日本語職業コースなどの具体案が決定される予定である。中等教育と高等教育の日本語教育におけるアーティキュレーションの効果的な推進が目的である。

●「The 防災 中高大連携」シンポジウム開催（H25、3月10日）

●短期外国人滞在者のための「ハザードマップ」、および「外国人のための防災テキスト」作成（H24年度文化庁受託事業）

●「日本のボランティア養成講座」および「EPA 看護師候補生のための日本語教室」開催（以上2011年度から2013年度文化庁受託事業）

3. 「日本一の健康長寿県構想」と高知らしい日本語教育のあり方

高知には、以下の日本一が存在している。

●食べ物関係：

- なす 全国1位、ししとう 全国1位
- しょうが 全国1位、みょうが 全国1位
- ゆず 全国1位、文旦類 全国1位

にら 全国2位、ゆり 全国2位

ピーマン 全国3位、大葉 全国3位

ポンカン 全国4位、宿根かすみ草 全国4位

らっきょう 全国6位、スターチス 全国6位

きゅうり 全国7位

●マンガ家の多さ：

高知県は横山隆一・横山泰三・はらたいら・やなせたかし・黒鉄ヒロシなど漫画家を多数輩出した県としても知られる。

ツルモク独身寮（窪之内英策）

お〜い!竜馬（武田鉄矢、小山ゆう）

竜馬へ（むつ利之）

土佐の一本釣り（青柳裕介）

まぐろ土佐船（青柳裕介）

ぼくんち（西原理恵子） 高知が舞台として明確に設定されてはいないが、西原の出身地である高知のイメージが強い

シャコタン☆ブギ（楠みちはる）

たいようのマキバオー（つの丸）

葵みちる、青柳裕介、厦門潤、安倍夜郎

井上淳哉、いましてろたかし、岩本久則

梅本さちお、小野新二、上北ふたご

くさか里樹、楠みちはる、窪之内英策

黒鉄ヒロシ、コジロー、古味直志

西原理恵子、里羅琴音（naked ape.s）

シロガネヒナ、JET、竹村よしひこ

谷脇素文、徳弘正也、中城健、中平正彦

奈月ここ、西谷祥子、浜口奈津子

はらたいら、飛龍乱、福原鉄平、正木秀尚
水本みち、村岡マサヒロ、森山大輔
やなせたかし、山田章博、弓月光：いの町
横山泰三、横山隆一、和気一作

- 高知の医療環境（日本一の延長線上にある県の構想）
入院患者数 1 位（病床数 1 位）、外来患者数 6 位、人口 10 万人当たりの医師数 1 位、後期高齢

者医療費 3 位、看護師数 1 位（以上 2009 年度）、
医師数 1 位（2010 年）と医師も看護師も潤沢で、
EPA を必要とする考えには至っていないのが高知の現状である。

しかし以下のように高知県では「健康長寿県日本一」^{図11}をスローガンに掲げている。世界の平均寿命で日本が一番長いのであるから、日本一ということ、とりもなおさず世界一を意味している。



図11. 日本一の健康長寿県構想（高知県）

ここで考えたいのは、医師・看護師が将来においても潤沢に確保できるとしても、なお外国人患者が想定される場合、医師や看護師にも外国人が居るとそうでないのとでは大きく需要も変わるし、期待や安心感の差も容易に想像できる。

また高知県が抱えている大きな問題点の一つは、医療環境の充実ぶりが全県的ではなく、中心地である高知市に限定される点である。前述のように 34 の市町村が山や川で遮られ、東西に 700 キロ以上におよぶ長い距離を快適に移動する新幹線はおろか JR の特急も単線の行き違いを強いられる交通事情や、全域に開通していない高速

道路事情など、交通事情は著しく悪く、救急車自体が自由に動けない中で日本一構想は、高知市以外の実態を見る限り、ドクターヘリを飛ばそうが、医療圏別の医師数や看護職員数の手厚さの違い、また無医地区やへき地診療所、あるいは出張診療所が現実問題として多く点在しているように、人口の約半数が集中している都市部（高知市）とそれ以外の郡部、特に交通事情や人の少ない山間部とでは、一見豊富に見える医療体制にもかなりの差があり、単純に数値で見えるような医療関係の豊かさ（ベッド数、医師数、看護師数、病院数など）を実感することは難しい。

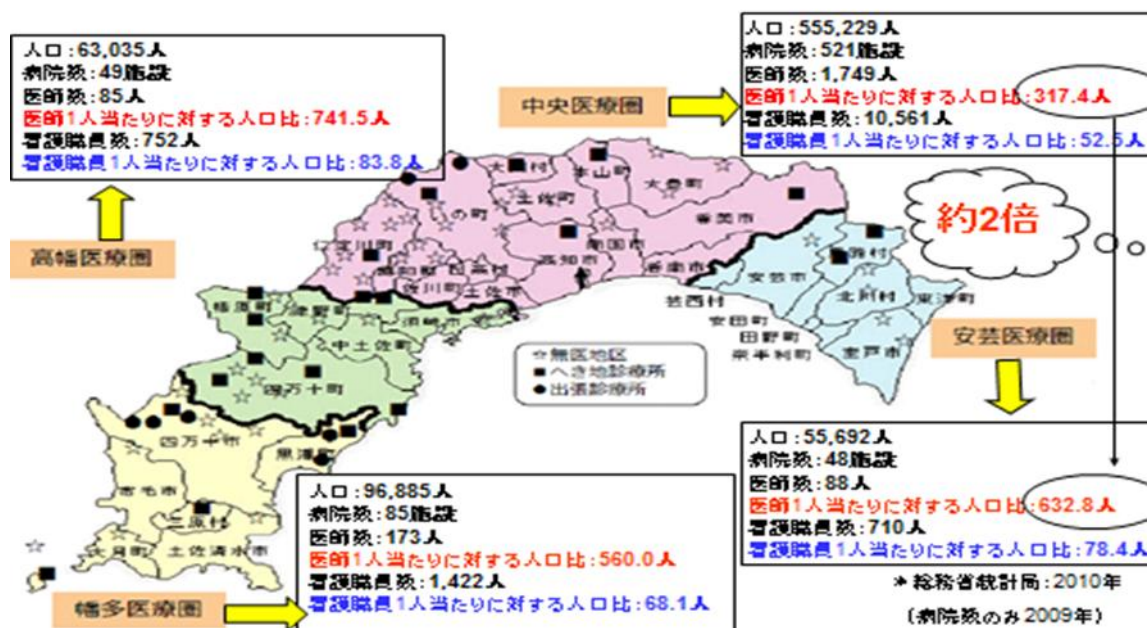


図12. 医療圏別実態調査 (総務省統計局による)

4. 今後の課題

今回は、特に地域と外国人、そして日本語教育という視点から論を進めてきた。地域性としては、お酒・マンガ文化、また外国人と日本語教育という視点からは特に「EPAを加味した医療面」と高知県の留学生数の半分を有する明德義塾高校との日本語教育に関する高大連会の一部を紹介することにより、高知に根ざした日本語教育や日本語教員養成を考えてみた。現状は、高知県の「豊富な自然と豊富な高齢者数」の中で一見豊かに見える医療環境も県全体から見ると、非常に不安材料が多く、また一方で県の日本一の健康長寿県構想や「昔、ローマの休日。今、竜馬の休日」、あるいは「おもてなし課」と謳っている観光客獲得への取り組み、そこに外国人旅行者・医師・看護師と日本語教育を加味し総合的に考えてみると、メディカル・ツーリズムの可能性が見えてくる。

しかし、基本的なアクセスの悪さや県内の移動に関する諸問題は、まだまだ当分解決されない課題となろう。

注

- 1 内閣府が2013年5月29日に発表した2010年度一人当たりの県民所得によると47都道府県中、高知県は46位であった。

参考文献・資料

甲斐野智子・金谷裕美子・橋崎裕幸・松本香織 (2008)「潜在看護師をいかに現場復帰させるか」『政策フォーラム発表論文』ISFJ 日本政策会議

神吉宇一・布尾勝一郎・平田好 (2012)「日本における外国人就労者受け入れに関する課題の再検討ー日本語教育の社会的役割とはー」『日本語教育学会春季大会予稿集』pp29-pp40, 日本語教育学会

厚生労働省 (2010)「第七次看護職員需給見通しに関する検討会報告書」

厚生労働省 (2010)「医師・歯科医師・薬剤師調査の概況」

厚生労働省 (2010)「平成22年 我が国の保健統計」

日本貿易振興機構 (J E T R O)

政府統計の総合窓口「 I 健康・医療 市区町村別
病院数」

<http://www.estat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001024903&cycode=0>

政府統計の総合窓口「閲覧 第 4 表 39 高知県
医師数, 業務の種別・従業地による二次医療
圏・市区町村別」

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001048347>

政府統計の総合窓口「閲覧 第 1 表 医師数・平均
年齢, 従業地による地域・業務の種別・年齢階
級・性別」

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001048347>

厚生労働省「経済連携協定に基づく外国人看護
師・介護福祉士候補者の受入れ等について」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/other22/>

厚生労働省「日・インドネシア経済連携協定に基
づくインドネシア人看護師・介護福祉士候補者
の受入れ等について」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/other21/index.html>

厚生労働省「参考資料(日・インドネシア経済連携
協定に基づく看護師・介護福祉士候補者の受入
れ)」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/other21/dl/o21_110728_2.pdf

高知県庁 HP: 「日本一の健康長寿県構想」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/>

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/131601/kenkouhp.html>